

令和 7 年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	10	学 校 名	田方農業高校	校 長 名	久保田 豊和
------	----	-------	--------	-------	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	農業高校で学ぶ知識と技術をしっかりと体験し身に着ける。 （基礎学力の定着。実験・実習を大切にする。 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な学び」の一体的な充実）	常に授業を大切にし、準備をして臨むことができた生徒 90%以上。	97%	B	【成果】 - 全体としては、学習集団の授業規律は、概ね良好であったと思われる。 - 農業科目の学びを進路実現に活かす生徒もいた。 - C-Learning を活用したガクチカや各種振り返りの機会を設けた。 - 授業に向かう姿勢、道具の準備、予習や課題の取り組みはおおむね達成できている。 - 漢字と意味の小テストを毎週実施継続することで、語彙に関する知識や技能の基礎力は定着しつつある。 - Chromebook を活用した学習活動を仕組むことができた。 - ICT（スタディサプリ）を上手く活用することで、家庭学習でできることと学校でしかできないことの棲み分けができ、授業では学校でしかできないスピーキングなどの英語のパフォーマンス力向上に時間をたくさん使うことができ、成果を出すことができた。 - 生徒は概ね良好な授業態度であった。 - ICT を活用し、興味関心が持てる授業の工夫ができた。 - 学力の定着については、学科間の差が大きく「個別最適な学び」について今後の課題となる。 - 科目「農業と環境」では、朝観察を通じて、作物の生育状態や収穫基準に達しているかを観察して授業の準備を行うことができていた。普通科目においても、落ち着いた雰囲気の中で授業に臨んでいた。 - 毎授業での体操や補強を正しく行うことで、体力の向上につながった。 - 保健の授業において、定期テストや調べ学習などで1台端末を活用することができた。 - 多くの生徒がきちんと準備をした上で授業に臨んでいる。入学時は数学が苦手な生徒が多いが、授業に前向きに取り組むことで力をつけた生徒も多い。課題の中に簡単な計算問題も取り入れることで、基礎力の維持に努めた。 - 実験実習を行うための態度を養うことができた。
		基礎学力が定着した生徒 90%以上、保護者 55%以上。	生徒 90% 保護者 74%		
		毎日の学習活動で個人端末を活用した生徒 90%以上。	86%		

				・2年生「課題研究」において、個人端末を活用して資料確認等を行った。 ・1年生「生物基礎」では身近な話題の提供とグループで解決する課題を毎時実施し、生徒の興味関心を高めることができた。 ・2年生「化学基礎」においては、学科やコースの実態に応じた指導を行うことで実力に沿った授業展開を行い、専門的分野で化学を活用する生徒の学力が向上した。 ・3年生「科学と人間生活」においては、日常の身近な事象を取り上げながら、農業科目との横のつながりを保ちつつ授業をすすめることができたので、生徒の自然科学全般に対する興味関心が高まった。 ・理科の全科目について授業の資料や解説、答案返却などを学習端末を用いて行った。 【課題】 ・進路決定後に、学習意欲の低下がみられる生徒がいた。 ・課題や話し合いの内容に合わせて、個人・ペア・グループとさまざまな形態で取り組み、思考力・判断力・表現力の定着を図っているが、取り組む姿勢は生徒によって個人差がある。 ・個人端末の活用については調べ学習が主であり、毎日の活動で常に使用してはいないが、個人端末の活用自体が目的にならないようにしたい。 ・単語力や文法などの基礎学力の確立にはまだまだ課題がある。 ・大方のクラスが授業に向かう姿勢はきちんとできているが、一部のクラスでは机の上に荷物がたくさん置かれているなど学習環境が整えられていないクラスが見受けられた。 ・授業を大切にできていない生徒が少数いるため改善していく必要がある。 ・生徒全体の体力低下を感じているので、次年度も体力の向上がよりできるようなトレーニングを考えていきたい。 ・多くの授業で学習端末の使用を必須としている現状から考えて活用実績は実質は100%のはずであるが、個々の端末忘れなどが数字に影響していると予想される。今年度よりクロームブックの貸し出し管理を厳正に行い、忘れ物は昨年度に比べて著しく減少した。 ・スタディサプリ等で3年生の数学
--	--	--	--	--

様式第3号

					の授業等で義務教育段階の基礎学力の定着を行ったが、これからさらなる仕掛けが必要である。
イ	自ら考えて、自他のために行動する力を身に付ける。	実験実習等で挨拶や感謝の言える生徒 95%以上。	98%	B	【成果】 ・農業科目の実習などを通じて、仲間と協力する姿勢や仕事への責任感を培うことで、周囲への感謝の心を持ち、進んで挨拶のできる生徒が育っていると思われる。 ・田農祭の活動は、自他の理解を深める機会となった。 ・個別的活動が主となる進路実現の活動においても、他者の進路活動に気を配るなど、全体の利益を考えた振る舞いがみられた。 ・栽培作物において、家庭学習で作物について調べたり、調理方法を調べるなど、家庭学習に取り組む生徒の様子をうかがうことができる。 ・多くの授業でグループワーク等実施しており、自己の意見を持ち、他者の意見を尊重している姿をうかがうことができた。 ・実験中に相手のことを思いやりながら共働することができた。 ・周りを見ながら実験に必要な器具、材料（試料）を自ら進んで準備することができた。 ・実験実習では、自ら積極的に片付け、整頓を行うことができた。 ・日々の清掃活動にしっかりと取り組むことができた。 【課題】 ・朝読書の活動が、図書室の利用や読書量の増加には簡単には結び付かないのが現実である。 ・多くの生徒が清掃活動にしっかりと取り組んでいたが、各自の私物や教材などの整理整頓・自己管理は不十分な生徒に対する自己管理能力を育てていけたらと思う。 ・蔵書の整理、図書委員による図書たより、月ごとのおすすめ本の展示、購入希望図書の積極的な採用等、様々な工夫を行っているが、端末で読書する時代に図書室に目を向けさせるには何か魅力的な工夫を考えていくことが必要である。
		自発的・積極的・粘り強く授業や家庭学習に取り組む生徒 75%以上。	90%		
		自分の意見や考えを持ち、他者の意見を認める生徒 95%以上。	96%		
		図書室を有効に活用できたとする生徒 30%以上。	14%		
		整理整頓を意識し清掃が行える生徒 90%以上。	91%		
ウ	将来の生き方・暮らし方・働き方を考える。 (キャリア教育と進路指導の充実)	進路意識が高まった生徒 90%以上。	85%	B	【成果】 ・概ね家庭や保護者の理解と協力を得ながら、進路支援を行えたと判断する。 ・関連産業や学校の明確な基準はないが、農業・動物・食品・保育系への進学者は 70 数名、就職者は 10 数名程度を、進学・就職合計で 90 名弱と推定される。 ・進路行事として、専門学校と大学との学びの違い、職業インタビュー、進路漫才で高校生活と進路について、自分の興味のある分野の専門学校と大学のガイダンス、4
		進路支援が十分行われていると感じる生徒 90%以上 (93)、保護者 80%以上。	生徒 94% 保護者 91%		
		関連産業・学校に進む生徒の割合 20%以上。	45%		

					つの大きな行事を行った。自分自身の進路を考えるきっかけとなった。 ・生徒だけでなく、保護者も一緒に進路ガイダンスへの参加を実施したことで、保護者と生徒が一緒に進路について考えていく機会を作れた。 ・希望者ではあるがインターンシップなど学校外での学びを積極的に取り入れ進路意識を高めることができた。 ・保護者には「進路説明会」の実施、「進路だより」や「進路の手引き」などの情報提供のため満足度が増したと考える。今後とも進路に関する情報を提供していく。 ・個別の進路指導を実施し、希望する進路実現につながった。 ・食品科学科は、5割以上が関連産業への就職、専門学校（大学・短大）への進路を決めた。 【課題】 ・3年生ということもあり、自らの進路実現に向けて前向きに取り組む生徒が多かったと思う。一方で、各種書類などを確実に提出するなど、自己管理の能力・情報を受け取り処理する力は、まだまだ足りない面があったと思われる。 ・保護者への進路情報などの提供が課題だと感じた。 ・進路意識の低い生徒の進路意識を高める取り組みは弱かった。 ・進路ガイダンスやキャリアに関する講座等を各学期1回以上実施した。進路意識を高めるために「進路の手引き」を読ませることや体験活動を充実させるための仕掛けが必要である。
エ	学校農業クラブ・生徒会・部活動によって自治を学ぶ。	学校農業クラブ活動に積極的に関わった生徒 70%以上。	49%	A	【成果】 ・意見発表やプロジェクト発表など、各種活動で活躍した生徒はが多く、成長したと思われる。 ・田農祭など各種特別活動に意欲的に取り組む生徒が多かった。各種活動の振り返りなど C-Learning の検証でも、生徒自身の自己評価は高かった。 ・生徒会を中心に、特に田農祭に積極的に関わる生徒が増えた。クラス、委員会等細部まで声掛けを行い、自分たちの活動をより充実したものにするためサポートしていきたい。 【課題】 ・子供が学校での様子を楽しそうに話をしてくれるという意見が増えた一方で、学校の様子がほとんどわからないという意見も一定数ある。学校として保護者への情報発信を充実させることは次年度以降も必須。
		学校行事等を積極的に行った生徒 95%以上。	98%		
		子供が特別活動（行事・部活・委員会等）に満足していると感じる保護者 70%以上。	91%		

様式第3号

					・競技会や発表会等へ参加している生徒が増えているが、農クの活動と結びついていないと思っている生徒が多い。プロジェクト学習と農ク活動の結びつきを定着させたい。
オ	伊豆田方分校等との「共生・共育」によって社会の多様性について学ぶ。 (インクルーシブな学校運営モデル事業)	共生・共育の交流活動各科3回以上。	3回	A	【成果】 ・セラピーコースの生徒を中心に多くの交流の機会を持つことができた。 ・伊豆田方分校との交流を3回実施した。 ・講師招請授業を4回以上行った。
		講師招請を含めた地域連携活動各科4回以上。	4回		
		共生・共育の検証実施			
カ	全ての生徒・教職員が安全で安心して学ぶことのできる場をみんなでつくる。	学校全体で特別支援教育や教育相談、通級指導の情報共有5回以上。	10回以上	A	【成果】 ・2学期末のD-MATによる講話は、看護系への進学を志す生徒の動機付けにもなる有意義な企画であった。 ・4月に生徒情報を共有し指導やサポートについて全職員で周知することができた。 ・相談室だよりの定期的な発行によりSC来校日等を連絡することができた。情報共有については各学期の始まりと終わりに学年と生徒情報を共有し必要なサポートを検討、実施することができた。 ・防災訓練、防災講話を継続することで、防災意識が上がりつつある。 ・目標値を超えている点から生徒の日頃からの災害発生に対する危機意識が高まっていることが窺える。 ・南海トラフ巨大地震発生確率が高まっている中で防災意識が高まっている。 ・特別支援教育や教育相談、通級指導の情報共有が10回以上できた。随時連絡を取り合い情報共有していた。
		地域防災を意識している生徒50%以上。	55%		
キ	持続可能な社会をつくるために、保護者や地域社会と連携する	時代に即したPTA活動の在り方検討。		B	【成果】 ・「熟議」に関して、今年度、進路指導主事の力量が高く、職員へ連絡や周知が丁寧かつタイムリーに行われ、本校のモデルとなる実践であった。 ・PTA総会を夕方開催にすることで、保護者が参加しやすい工夫をした。 ・函南町観光協会と協力し、新商品の開発・販売を実施した。 ・農業環境健康研究所と合同で、米
		J Aや地元農家・企業との連携が促進。			
		熟議が学校運営に反映したと感じる委員100%。	100%		

様式第3号

					粉クッキーの加工販売を実施した。 【課題】 ・今後もPTA活動の負担軽減に努めたい。 ・PTA組織について役員と教職員で共通理解が必要。 ・PTA活動・本部役員に関心を持ってもらうための方策の検討が必要。
ク	新しい時代の価値観に沿った働き方、専門職性を修得する。	専門職性向上のための研修実施。		B	【成果】 ・問題を抱える生徒に対する理解、対応と支援、指導に係る時間の確保について考える研修を実施することができた。 ・年次別研修該当者に対する研修及び情報共有、チーム研修を実施することができた。また、チーム研修では活発に意見交を行い、課題についての認識を深めることができた。 【課題】 ・研修で得られたヒントをどのように実践していくか。 ・人権教育を知るための研修に参加する必要があると感じた。 ・全体に研修斡旋、情報共有する方法を模索して行きたい。 ・教職員研修は、教職員のモチベーションが高まる企画であることが重要である。また、実施時期については、講師の都合もあると思うが、繁忙期を避けるなどの工夫が必要である。
		ワークライフバランスと生産性向上。			
		教職員の不祥事、体罰、交通事故0件。	交通事故3件		
		監査、検査の注意0件。			